

災害時のペット対策について

「同行避難の必要性と備え」を知っておこう

いざ大災害が発生したとき、あなたの家族とペットが共に安全に避難でき、一緒に暮らせるように、日ごろからの心構えと備えが大切です。

飼い主として、日ごろから何を準備し、どのような心構えをしておけばいいのか、一緒に考えていきましょう！



災害が発生！避難をする場合には…？

避難の指示などがあつた場合には、ペットを連れて避難(同行避難)をしましょう。

過去の災害から、ペットを家に残した場合、「世話ができずにペットが亡くなる、行方不明になる」ということがあります。

ペットと離れ離れになった場合、心配になるため、飼い主の「心のケア」としても大切です。

避難所のペットの受入態勢は、ご存じですか？

避難所では、ペットと人は一緒に生活できません。ペットはまとめて、施設の外で管理することになります。(動物が苦手な人、アレルギーの人などへの配慮のため)

避難所には、「ペットフード」などのペット用品は用意されておりません。※避難所の生活では、鳴き声や抜け毛、臭いなど、普段以上に周りに配慮することが必要です。動物の世話を飼い主が協力し合い、ペットの避難所を運営していただきます。

日ごろからの災害への備え(ペットに対する備え)は、飼い主の責任になります。

- 病気予防と健康管理
- 狂犬病予防接種(犬の場合)
- 各種ワクチン接種
- 寄生虫の駆除
- ブラッシング・シャンプー・爪切り



ペットのしつけ

- ケージの中に入ることを嫌がらない
- 決められた場所での排泄
- 不必要に吠えない、また人を威嚇したり攻撃しない(犬の場合)
- 「待て」「伏せ」などの基本的なしつけ(犬の場合)
- 人やほかの動物を怖がらない(猫の場合)

■備蓄品などの用意

- フード・水(数日分)・食器
- 予備の首輪・リード
- 排泄物の処理用具
- キャリーバック・ゲージ
- シーツ、タオル、おもちゃ
- 愛犬手帳 など

避難所では市がテントを設けますので、飼い主がゲージを用意し管理していただきます。

- 「ゲージ」に慣らす方法
- 普段から休めるスペースとして開放しておく。
- ゲージの中でフードを与えるなど、良い印象を持たせる。
- ゲージの中でリラックスしているのを見つけたらほめる。

■「ゲージ」の種類

- 寝そべることができ、広すぎず、狭すぎない大きさであること。
- 柔らかい素材よりも、硬い素材の方が安全度は高い。



地震が起きた際の初期行動について

平成23年3月11日に東北地方において発生した「東日本大震災」の発生から5年が経過しました。

地震や津波によって甚大な被害をもたらした「東日本大震災」ですが、地震直後の避難の遅れが人的被害の要因の1つであるとも言われています。

災害が発生した場合には、直後の初期行動が非常に重要になります。命を守るためにどのような行動を取ったらいかが事前に把握・確認しておきましょう！

災害発生時、自分の身は自分で守る！

地震発生！

地震が発生したら、まずどうすればいいの？
⇒まず、自分の身を守る(自助)

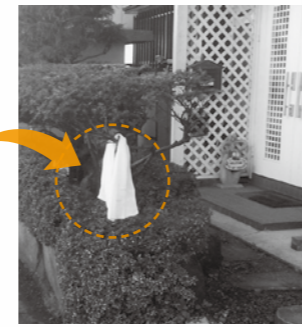
地震発生時の行動(身を守る行動を！)	
1	身の安全を確保する【シェイクアウト姿勢】 →①ドロップ：姿勢を低くし →②カバー：頭部・体を保護姿勢にして →③ホールドオン：しばらくそのままの体勢でいる ※転倒落下物から身を守る場合は机の下にもぐる、座布団・カバンなどで頭を守る、家具から離れる など
2	可能であれば、ドアを開けて、出口を確保する。
3	原則は、「安全ゾーン(転倒落下物の少ない閉じ込められない場所)へ退避する。倒壊の恐れのある古い建物の場合は、「机の下に身を隠す」方法が正しいとは限らない。



画像提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会

地震が収まったら、どうすればいいの？
⇒お互いに助け合う(共助)

地震が収まった後の行動(安全な場所へ避難)	
4	火を使っていたら、揺れが収まってから直ちに消す。(発生時、目の前で火を使っていた場合は火を消すことが最優先)
5	同じ自宅内にいる家族の確認を行う。
6	自宅から離れる場合、避難する場合には、必ずブレーカーを落とす。(停電復旧後の『※通電火災』を防ぐ)
7	無事であることを知らせるため、白色タオルを外から見える箇所にかける。(道沿いの柱、玄関先など)
8	自宅に倒壊の恐れがある場合には、非常時持出品(水と各自必要なもの)を持ち、落ち着いて自主防災会ごとに決められた一時避難場所に避難する。(自宅に倒壊の恐れが無い場合には、自宅に留まっても良い。)



※『通電火災』とは？

地震発生時には「通電火災」に注意が必要です。「通電火災」とは、地震発生時に倒れたストーブ等が停電復旧に伴い、再稼働し火事を引き起こすものです。

避難する場合には、必ずブレーカーを切って、避難してください。(阪神・淡路大震災の建物火災の内、約60%が「通電火災」によるものだったという統計もあります。)

落ち着いて避難しましょう